

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金泉中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

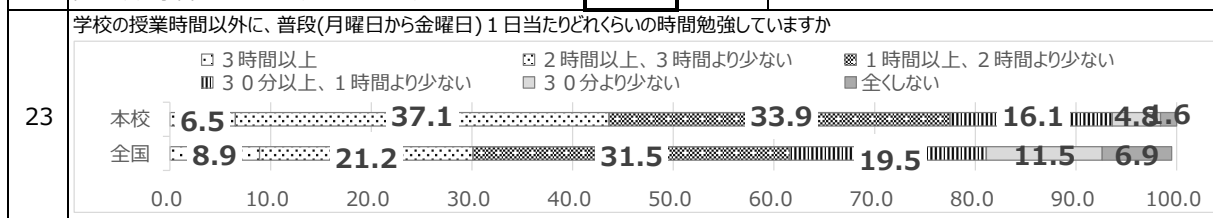
《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	91.9	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	90.4	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	96.8	92.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	83.9	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	88.8	79.0



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎9割以上の生徒が、授業の中で話し合う活動などを通して主体的に考え取り組んでいる。

◎8割以上の生徒が、学習した内容を振り返り、次の学習につなげることができている。

●平日3時間以上の学習習慣が身についている生徒は全国平均より少ない。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	90.3	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	74.2	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	88.7	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	96.7	91.0

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.4	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	82.2	72.3

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎自己肯定感が高く、幸福感を抱く生徒が多い。

◎社会の役に立ちたいと思う生徒が多い。

●将来の夢や目標を持っている生徒が少ない。

調査結果を受けて

【学校では】

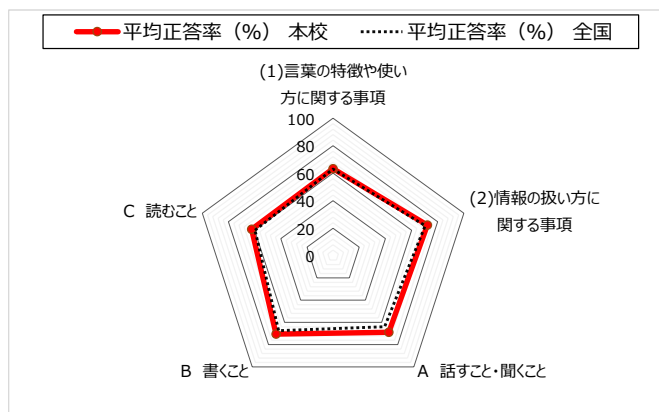
- 自己存在感、自己決定の場、共感的人間関係を取り入れた「金泉授業」の取り組みによって、生徒が主体的に学習に取り組むことができていると考えられるため、継続して行います。
- 開発的生徒指導の推進によって、自己肯定感が全国より高くなっていると考えられるため、この取り組みを継続して行います。

【ご家庭では】

- 家庭学習ができる環境整備をお願いします。また、まなざしカードを活用し、家庭で学習時間について話し合う機会をもってください。
- 家庭で職業、働くことについて、高校進学など将来の夢実現や進路について話をするようにお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使いに関する事項	63.3	63.0
	(2)情報の扱いに関する事項	72.1	70.4
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	68.9	63.9
	B 書くこと	70.5	67.4
	C 読むこと	62.3	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	74.5	72.7
短答式	53.0	55.8
記述式	54.6	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査で、「思考・判断・表現」が全国平均正答率を3.5ポイント上回りました。読み取った内容を基に自分の考えを整理したり、表現の工夫とその効果について自分の考えを表現したりすることができるようになってきたと考えられる。

● 課題は、「言葉の特徴や使いに関する事項」の正答率を上げることです。今回の調査では、同訓異字や擬音語・擬態語に関する問題を苦手とする生徒が多かったため、語彙力を高めていく必要がある。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 四	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	55.7	45.0
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	49.2	38.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 一	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	29.5	39.8
4 三	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる	65.6	68.7

調査結果を受けて

【学校では】

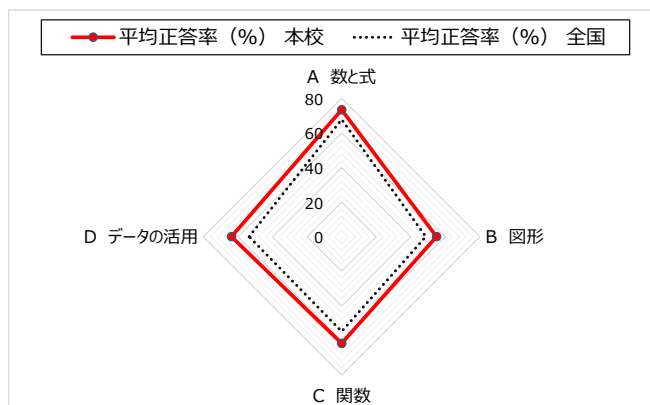
- 漢字の読み書きをはじめ、様々な言葉を場面に応じて使い分けようとする課題に取り組みながら、語彙力を高めていきます。
- 身に付けた語彙を使って工夫しながら表現活動を行うことで、自分の言葉として表現できる力を身に付けていきます。

【ご家庭では】

- 漢字についての課題に時々目を通しながら、正確に覚えようとしているか確認をしてください。
- 日頃の会話が単語のやり取りだけにならないように、文章で会話するように心がけてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	73.4	67.8
B 図形	54.9	48.7
C 関数	61.7	54.8
D データの活用	63.1	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	63.9	59.3
短答式	68.9	64.2
記述式	53.3	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査では、領域、問題形式のそれぞれの区分において、すべての問題正答率が全国平均正答率を上回りました。とくに記述式の問題では、全国平均正答率を14.2ポイント上回り、各単元において、記述の型やキーワードを示したうえで、記述問題に取り組んだ成果が表れていると考えられる。

● 「図形」領域の筋道を立てて考え証明する問題の正答率が41.0%と最も低かった。図の中で等しい線分や等しい角を見つけることはできているので、それが等しくなる根拠を的確に表現できるようすることが必要である。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2	同類項の意味を理解しているかをみる。	93.4	70.5
9 (2)	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる。	86.9	75.8

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
8 (3)	具体的な事象をもとに証明する事柄の過程を見出すことができるかどうかをみる。	41.0	37.1
8 (2)	筋道を立てて考え証明することができるかをみる	50.8	46.1

調査結果を受けて

【学校では】

○引き続き、こまめに小テスト等を行いながら、基礎・基本の定着を図ります。

○身近な事象と関連付けながら、身に付けた基礎・基本を活用して問題解決していく場面を数多く設定していきます。

【ご家庭では】

○タブレットを使って、授業の復習をしたり、発展的な問題や入試の過去問題等に取り組んだりすることを勧めてください。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	477
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.2 / 2	2.3 / 5	0.4 / 2
全国	1.2 / 2	2.6 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
4	聞くこと	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる。
8	読むこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
6	読むこと	音声や語彙、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる英語のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。
12	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

結果 ※◎（強み）、●課題

◎基本的な文法事項はある程度理解できているので、日常的な話題の内容を聞き取ったり、読み取ったりする力は身に付いている。また、与えられた話題から必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりするポイントを捉えることができている。

●学習した基本的な表現を、相手とのやりとりの中で適切に使用したり、応用したりする力が十分に身に付いていない。また、基本的な英文はある程度書くことができるが、自分の考えや事実を筋道を立てて書く力が身に付いていない。

調査結果を受けて

【学校では】

○今後もリスニングや英文の読み取りを継続して行い、語彙を増やしながら英語での表現の幅を広げる課題を設定していきます。

○身に付けた知識を相手とのやりとりの中で使用することができるように、生徒の興味をひくような場面を設定し、コミュニケーション活動を継続して行います。

【ご家庭では】

○洋画や英語の歌など、英語に触れる機会を大切にしてください。

○家庭での学習の様子を見られて、励ましや承認のことばかけをしてください。